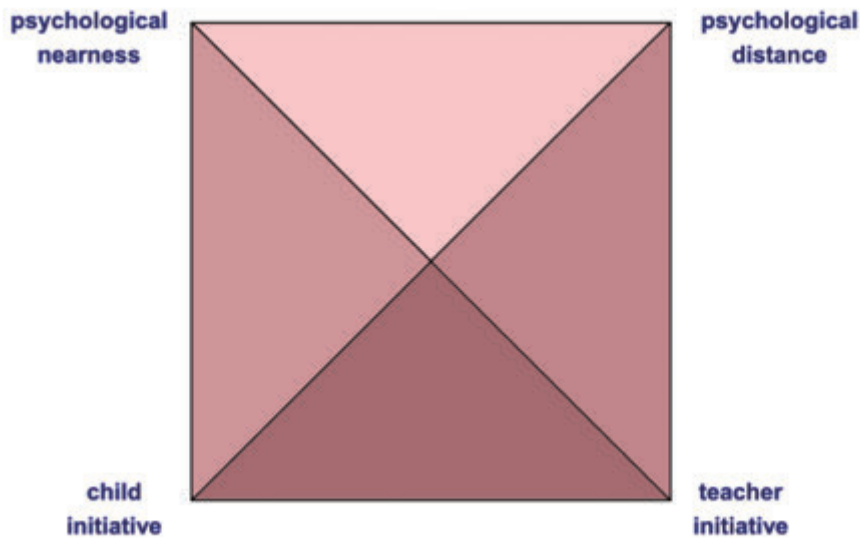


■ニアネス Nearness とディスタンス Distance 理論

ピラミードの名前の由来は、巨大なピラミッド構造物です。ピラミッドは四つの基礎石で支えられているという発想から、ピラミード開発者カルクは、幼児教育の基礎を四つの理論で構築しています。子どもが自主的に遊ぶ (Child initiative) と保育者の積極的な支援 (Teacher initiative)、さらに、心理的愛着 (Psychological nearness) と心理的距離感 (Psychological distance) から成り立っています。

アメリカのブルーナーが唱えた教育の「足場論」と同様に、カルクはピラミッドの構築物をイメージしました。ピラミードの独自性は、四つの基礎石の寄り添ってあげる基礎石には教育的な愛着 Educational nearness と教育的な距離感 (愛着と対極) Educational distance が含まれていることです。見事な保育 (養護) と教育を構造化された幼児教育理論といえます。



■四つの基礎石理論

ピラミッドの構築物からヒントを得て、ピラミードの理論四つの基礎石

「Child initiative」

「Teacher initiative」

「Psychological nearness」

「Psychological distance」が考案されました。

子どもの自主的な遊びと行動 (Child initiative) と

保育者の積極的な支援 (Teacher initiative) が向かい合い、心理的愛着 (Psychological nearness) と心理的距離感 (愛着と対極) (Psychological distance) が向かい合っています。そして、保育活動が行われると、これらの基礎石が相互に作用しながら働くという理論構成です。四つの基礎石を具体的に説明します。